

HEITAN

恋のラブソング

II

決定稿

制作：横浜緑吹奏楽団第35回定期演奏会実行委員

『HEIAN』恋のラプソディーⅡ』

【キャスト】

藤原 駄仁得留（ふじわらのだにえる） 35

平安時代後期の貴族。内大臣。平安貴族らしく、和歌を愛好している。細かいことは気にしない性格で美女・かわいい女子に弱い。愛読書は『枕草子』で、その筆者清少納言の主人である中宮定子（高階貴子の娘）が理想の女性像。なぜかサックスが吹ける。口癖は「いとやばし」。2年前、雷鳴とともに平成の世にタイムスリップし、女子大生のなつみと恋に墜ちた。これから、というところで再び雷鳴が鳴り響くと、再会を誓う和歌を詠み残して平安時代に帰っていった。

高階 なつみ（たかしな なつみ） 23

2年前、女子大生だった時に平安貴族・藤原駄仁得留と偶然出会い、恋に墜ちてしまった。今は社会人となって新生活を送っており、恋人もできて、充実した毎日を過ごしている。変な貴族との出会いは忘れられず、時たま駄仁得留のことを思い出したりもする。好奇心旺盛、明るく楽観的な性格は変わっていない。

九条 仁（くじょう じん） 30

社会人となったなつみの恋人。実は藤原駄仁得留の子孫。

1 第1場 現代の横浜

ナレーション 「《忘るなよ程は雲居になりぬとも空行く月のめぐりあふまで》

2年前、雷鳴とともに現代にタイムスリップしてきた平安貴族・藤原駄仁得留は、当時女子大生だったなつみと恋に墜ちた。しかし、無情にも元の時代へ帰る時が来ると、『いつか再会する日まで私を忘れないでくれ』と和歌を詠み残して去ってしまった。年月は流れ、社会人となったなつみには恋人もでき、充実した毎日を過ごしていた」

ライン通話の着信音（マリンバ）が鳴る。

なつみ登場（上手）

なつみ

「（嬉しそうに）あ、仁だ。（電話に出て）はいはい、こんばんは。：明日？映画？あ！あたしアレ観たい！『マンマ・ミーア』！：あくそれね。仁てホントそういうの好きだよねー」

なつみ通話しつつ退場（上手）。暗転。ニワトリSEで明るくなる。

【M1】《美女と野獣》朝の風景

曲あけ、なつみ登場（上手）。出かける準備中。

なつみ

「さてと。（バッグの中を確認して）忘れ物は：なし！でもまだちょっと早いかなく」

2

第2場 平安時代の京都

ライン通話の着信音（マリンバ）が鳴る。

なつみ

「（電話に出て）もしもしおはよー。…うん、今準備してたところ。どしたの？ええ！仕事?!なんで急にー…うん。分かった。仕事って何時ごろ終わるの?…じゃあさ、ご飯食べに行こ。うん、待ち合わせは5時半、三丁目のセブンイレブンね。オツケ。じゃあ、お仕事がんばってね（通話終了）（うつむいて）ん〜映画楽しみにしてたのに〜！（顔をあげると満面の笑みで）ま、いつか！夕方には会えるもんね。」

なつみ、機嫌を取り戻しルンルンで退場。（上手）

【M2】恋

曲の途中、なつみ&ダンサー登場して恋ダンス。ダンサーは曲終了後席に戻る。なつみは舞台上に残ったまま。

なつみ

「（軽い感じで）仁のやつ、豪華なダイナー奢ってもらうからな。さて。せっかく天気も良いし、とりあえず出かけるか！」

なつみ退場（上手）。ドア開閉のSE。直後に雷SE。

なつみ（舞台袖）「（天気急変に驚き）えっ?何これ?!キャーキャーキャーキャーッ!!」

雷照明（雷SEは続いている）。舞台暗転。**平安BGM**。
なつみ登場（下手）。困惑して立ち尽くすなつみ。

なつみ 「（ゆっくり周りを見渡しながら）え、何？ここ、どこ？（スマホを操作して）電波が入らない…嘘でしょ…」

なつみ、小走りで退場（上手）。入れ替わりに駄仁得留が登場（下手）。

駄仁得留 「はーっはっはーっ。何じゃ今の雷は。いとやばしー！！…何てな。いや、あの時はホントに焦ったものよ」

なつみ、駄仁得留のセリフの途中で登場（下手）。

なつみ 「（混乱しながら）何々？…ったく、どうなってんの？（駄仁得留に気づいて）あ、人だ。変な格好。（駄仁得留に近づいて背後から）あ、すいません」

駄仁得留 「おお！奇妙な女！（じつとなつみを見た後）ひよつとして、なつみか？」

なつみ 「え！藤原のダニーちゃん?!ダニーちゃんなの？」

駄仁得留 「おお、駄仁得留じゃ！そなた、やはりなつみか！久しいのう。会いたかったぞ」

なつみ 「私も！」

駄仁得留 「いやはや、2年ぶりか？しかしそなた、どうしてここにおるのだ？」

なつみ 「よく分かんないの。…ってどうか、ひよつとしてここは…」

駄仁得留 「そなたの時代から900年ほど前の京の都だ。どうじゃ？平安の風は」

2人退場。(下手)

【M3】オリエンタル・ウィンド

曲あけ、2人登場(下手)。

駄仁得留 「そうか、さっきの雷で今度はそなたがなく。(なつみの顔をよく見ながら)

なつみ 「しかし、気のせいかのう。少し顔が変わっておらぬか？」

なつみ 「そう？それは諸事情により女優が変わったからじゃないかしら」

駄仁得留 「女優？女優って何じゃ？」

なつみ 「(駄仁得留を遮りながら) あー、もういいじゃない。それより！900年

も前に来ちゃうなんて！」

駄仁得留 「ふむ。あの時まるも帰れたし、まあそのうち何とかなるのではないか？」

なつみ 「(考え込んで) んー。(吹っ切れて) そうね！きつと何とかなるわよね！

よし！じゃあ、ダニーちゃん、どこか案内してよ。せつかくだから」

駄仁得留 「お？でえとというやつだな。良かろう。どこか行きたい所はあるか？」

なつみ 「えーっと、えーっと。東大寺！大仏見たい、大仏！」

駄仁得留 「あのな、それはお隣、大和の国じゃ。行くだけで1日かかるわ。ほな、清

水さんでも行きまひよか？」

なつみ 「清水寺?!今年の漢字とか発表する所よね！行きたい！」

駄仁得留 「よし、では一首」

駄仁得留、和歌を書きしたためる。

なつみ 「そうだ。これがあったんだ。(短冊を取り上げて)

S E 和歌

音羽山たづねてみれば清水に濁る心も澄みやしぬらむ

(少し考えて) 分かった! 清水寺と清らかな水が掛かっているんですよ。で、これは誰が作った歌なの?」

駄仁得留 「まろじゃ」

なつみ 「へー、オリジナルの歌も詠むんだ」

駄仁得留 「では参ろう。(舞台袖に向かって) 惟光、車の支度をせよ!」

なつみ 「え? 車?」

S E 牛の鳴き声 (チューバ)

なつみ 「(苦笑して) あ、牛のやつね」

駄仁得留 「どうだ、かっこよかろう。サウザンドダニー号じゃ」

なつみ 「ルフィかい!」

駄仁得留 「レッツらゴー♪」

駄仁得留、先に退場 (下手)。

なつみ 「(CM風に澄ました感じで) そうだ、清水行こう。なんちゃって」

なつみ 小走りで退場 (下手)。

「M4」私のお気に入り

曲中、京を廻る動き。曲あけ、2人登場（下手）。

なつみ 「清水寺に、長樂寺に、八坂神社も行ったでしょ？次はどこ行く？伏見稲荷は？」

駄仁得留 「ちよつと遠いし大変な山道だぞ。それなら下鴨神社の方が：」

雷（小） S E

なつみ 「あ、雷！：ってことは」

駄仁得留 「どうやら、そろそろのようじゃな」

なつみ 「：ねえ、ダニーちゃん。：帰る前に伝えておきたいことがあるんだけど」

駄仁得留 「何じゃ？」

なつみ 「あのね？怒らないで聞いて欲しいんだけど：。実は私ね、元の世界に恋人ができたんだ」

駄仁得留 「（大げさに）えー！：何てな。分かっておったわ、何となくな。」

なつみ 「しかし不思議なのだが、まったく嫌な気がしなかったのじゃ」

「私も！：私もね、何か不思議な気持ちだったの。2年ぶりに会ったなんて思えなくて。何かずーっと一緒だったような気がしてたんだ」

雷（大） S E & 雷照明

駄仁得留 「いよいよ別れの時じゃ。そなたとはどんなに遠く隔たっても繋がっていら

なつみ 「ねえ、また会えるかな？」

駄仁得留 「それは分からぬが：」

3

第3場 現代の横浜

駄仁得留&なつみ「忘るなよほどは雲居になりぬとも空行く月のめぐりあふまで」

〔M5〕また逢う日まで

曲が始まったらなつみは上手に、駄仁得留は下手に退場。

曲あけ、暗転。車クラクションのSE。暗転の間になつみ舞台に。夕方。美しい夕日が出ている。仁との待ち合わせ場所にいるなつみ。

仁登場（下手）。

仁 なつみ 「なつちやーん！ごめんね、急に仕事になつちやって」

仁 なつみ 「んん。平気平気！」

仁 「今度絶対埋め合わせするから。ホントごめん。（扇子を取り出して）にしても暑いなあ。こりやルービーがまいうーだな」

仁 なつみ 「何、その古びた扇子？そんなの持ってたっけ？」

仁 なつみ 「こないだ物置から見つけたんだよ。すっごい古いんだけど、何だろ？何か妙に惹かれちゃってさ。もらっといた。何か書いてあるんだよね。」

音羽山たづねてみれば清水に…

なつみ何かに気づき、鞆から短冊を取り出し少し仁から離れる。

仁&なつみ「濁る心も澄みやしぬらむ」

仁 「え?! なっちゃん、何で知ってるの?! この歌、有名なの?」

なつみ 独白。暗転してなつみのみスポット。

BGM 「三丁目の夕日」イントロ（グロツケン）

なつみ 「（深く感動しながら）駄仁得留…仁…駄仁得留…。そっか…。仁…。仁は

ダニーちゃんの…。だからか…」

独白終了。照明戻る。

なつみ 「あく! うん、有名…なのかな? まあいいじゃん!（夕日を指して）ねえ、

見て。綺麗な夕日」

仁 「ホント。今日は特別だなあ。（いたずらっぽく）なっちゃんと一緒にだからかな?」

「やだ。さ、行こ? 何食べよっか?」

「ラーメン」

なつみ 「（食い気味に）却下! あ、ねえ、あの橋を渡った先に新しくお店出来たん

だよ。行ってみない?」

仁 「あー、あの京都ダイニングでしょ? そう言うと思ってる、実は…予約してありまーす。ほな、行きまひよか?」

2人のピンマイクオフ。話してる風で2人退場。（上手）

【M6】《ALWAYS 三丁目の夕日》メインテーマ

〈完〉